

子どもの

救急対応

ハンドブック



市
名
森

《はじめに》

核家族化の進行などにより、身近に育児相談ができる人がいないなど、子育て不安を抱えている保護者の方が増えています。

とりわけ、子どもさんが急な病気にかかったり、けがをされた時には、あわててしまったり、どのように対応したらよいのか分からないと悩んでしまわれる方も多いのではないのでしょうか。

この冊子は、そうした保護者の皆さんの不安を少しでもやわらげるために、子どもさんの病気やけがなど、救急時の対応とホームケアについてまとめたものです。日頃からご家族で目を通していただくなど、いざという時に落ち着いた対応をし、大切なお子さんを守っていただくために、ご活用されることを願っております。



※このハンドブックは、一般的な判断の方法です。不安な時にはくわな健康・医療相談ダイヤル（P21参照）やみえ子ども医療ダイヤル（P22参照）をご利用ください。また、医療機関受診の最終判断は、お子さんをみている保護者の方で行いましょう。

子どもの 救急対応 ハンドブック もくじ



● 上手なお医者さんのかかり方	3
● 発熱の時	5
● ひきつけ(けいれん)の時	7
● 吐いた時(嘔吐)	9
● 下痢の時	10
● 腹痛の時	11
● せきがひどい時	12
● 出血した時	13
● 頭を打った時	14
● 湿疹(ブツブツ)が出た時	15
● やけどをした時	16
● 誤飲・誤食をした時	17
● 熱中症になった時	19
● 薬の上手な飲ませ方、座薬の使い方	20
● くわな健康・医療相談ダイヤル24	21
● みえ子ども医療ダイヤル、救急医療情報	22
● 桑名市応急診療所	23
● 災害発生時に備えて	24

●上手なお医者さんのかかり方

- 受診はできるかぎり、「時間内」に「かかりつけ医」で
- かかりつけ医と連絡がとれない場合は、くわな健康・医療相談ダイヤル(P21参照)、みえ子ども医療ダイヤル(P22参照)や救急医療情報(P22参照)の利用を
- 土曜の夜間、日曜・祝日は桑名市応急診療所を(P23参照)
- 「診てもらってありがとう」の気持ちも大切に
- 重症の場合は迷わず119番

かかりつけ医について

近所などで、普段からかかりつける診療所のお医者さん(かかりつけ医)を持つことが大切です。日常的な診療や健康管理などを行ってもらうことによって、子どもさんの日頃の状態や病歴を把握していただけるので、急な病気やけがの時にも安心です。また、入院や検査が必要な場合にも適切な病院や診療科を紹介していただけますので、病院での受診がスムーズになります。



必ず持っていくもの

- ・ 保険証、母子健康手帳、お子さんの状態が分かるもの(体温を記録したメモや気になる便やおしっこ【おむつでも、きれいに洗った容器に入れても大丈夫です】など)
- ・ 飲んでいる薬や薬の名前が分かるもの(お薬手帳があれば持参)



●お医者さんに上手に伝えましょう(診察室でたずねられること)

- ・ どんな症状ですか?(熱の有無、気になる症状、食欲の有無、排便の様子など)
- ・ 症状はいつからありますか?(〇月〇日〇時頃から、1日に〇回くらいなど)
- ・ 今までに大きな病気にかかったことはありますか?
- ・ 近所や保育園、幼稚園などで流行っている病気はありますか?
- ・ 飲んでいる薬はありますか?
- ・ 薬や食べ物のアレルギーはありますか?
- ・ 家族にも同じような症状がありますか?

●お子さんを連れていく人

- ・ お子さんの症状や様子の分かる人が一緒に行きましょう。無理な場合はメモなどでよく分かるようにしましょう。(熱、食事の状況、飲んでいる薬などについて説明のできる人)
- ・ 特に、普段とは違った様子について説明のできる人が連れて行きましょう。



●持っていくと便利なもの

- ・ 着替えやタオル、替えオムツ、ティッシュペーパーなど
- ・ 待ち時間のためのおもちゃや絵本など



発熱の時

発熱時のチェックポイント

- ・機嫌は悪くないか。(遊ぶ・おもちゃや絵本に興味をしめす)
- ・食欲はあるか。(母乳やミルクの飲み)
- ・熱以外の症状はないか。
(体温には個人差がありますので、日頃の体温を計っておきましょう)

こんな時は?

- ・機嫌が悪く、グッタリしている
- ・嘔吐や下痢がある
- ・顔色・唇の色が悪い
- ・手足が冷たい
- ・赤ちゃんの場合は、飲まない・笑わない

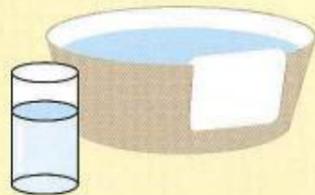
すぐ、お医者さんへ

- ・微熱のとき (37.5~38℃)
- ・機嫌が良く水分がとれるとき
- ・熱以外に心配な症状がない

しばらく様子を見ましょう

発熱の時のホームケア

- ・水分補給に心がけましょう。(お茶・お水をゆっくり・少しずつ)
- ・食事は消化の良いものにしましょう。(栄養は考えない)
- ・ぬるま湯でしぼったタオルで体をふきましょう。
- ・嫌がらなければ、頭を冷やしましょう。
- ・汗をかいたらこまめに着替えをさせましょう。
- ・夏なら、サッとシャワーも効果的です。
- ・適度な暖房・冷房を心がけましょう。
⇒ 大事なことは、本人が快適かどうかです。



●月齢(年齢)による対応

〈0~1ヵ月〉

発熱自体が緊急事態、母乳・ミルクを飲まない、動きが悪ければ、入院施設のある小児科を受診しましょう。

〈2~3ヵ月〉

母乳・ミルクの飲みが良く、機嫌も良ければあわてることはありませんが、早めに受診しましょう。

〈4~5ヵ月〉

母乳・ミルクの飲みが少し悪くて、少し機嫌が悪くても、それほどあわてなくてもよい。夜間なら翌日には受診しましょう。

〈6ヵ月以上〉

食欲や機嫌がまあまあならば、夜間や休日にあわてて受診しなくても大丈夫です。

Q&A

●乳幼児の平熱は?

- ・乳幼児の平熱は37.4℃までです。
- ・熱は上下するものです。
- ・泣いたり、食事の時や眠い時にも体温は少し高めになります。
- ・赤ちゃんは厚着や暖房の影響で体温が高くなることもあります。
- ・体温は1日中同じではありません。朝は低め、夕方は高めです。

●どうして熱が出るのでしょうか?

- ・体の中の異物(ウイルス・細菌など)を捕まえた白血球などが、発熱中枢を刺激する科学物質を分泌し、体温を上げます。(熱が出ます)
- ・病気(ウイルス・細菌など)が熱を出すものではありません。
- ・発熱は免疫(体を病気から守る力)反応です。普段と同じではいけないと体が教えてくれます。

●高熱が続くと後遺症が残ることはありませんか?

- ・高熱が続くこと自体が後遺症の原因ではありません。
- ・後遺症が残る可能性が高いのは脳炎や髄膜炎ですが、もちろん、脳炎や髄膜炎でも高熱が続きますので、高熱が続く場合は医療機関で診察してもらうことが必要です。

一口メモ

●解熱剤の使い方

- ・38.5℃以上はあくまで目安です。
- ・夜間・不機嫌・不眠なら使しましょう。
- ・6ヵ月未満は原則使いません。(低体温の危険)
- ・元気なら使う必要はありません。
- ・寝ているのを、起こして使う必要はありません。
- ・大人用のものを減らして使ってはいけません。
⇒ 病気を治すクスリではありません。(熱の痛みなどをやわらげるクスリです)

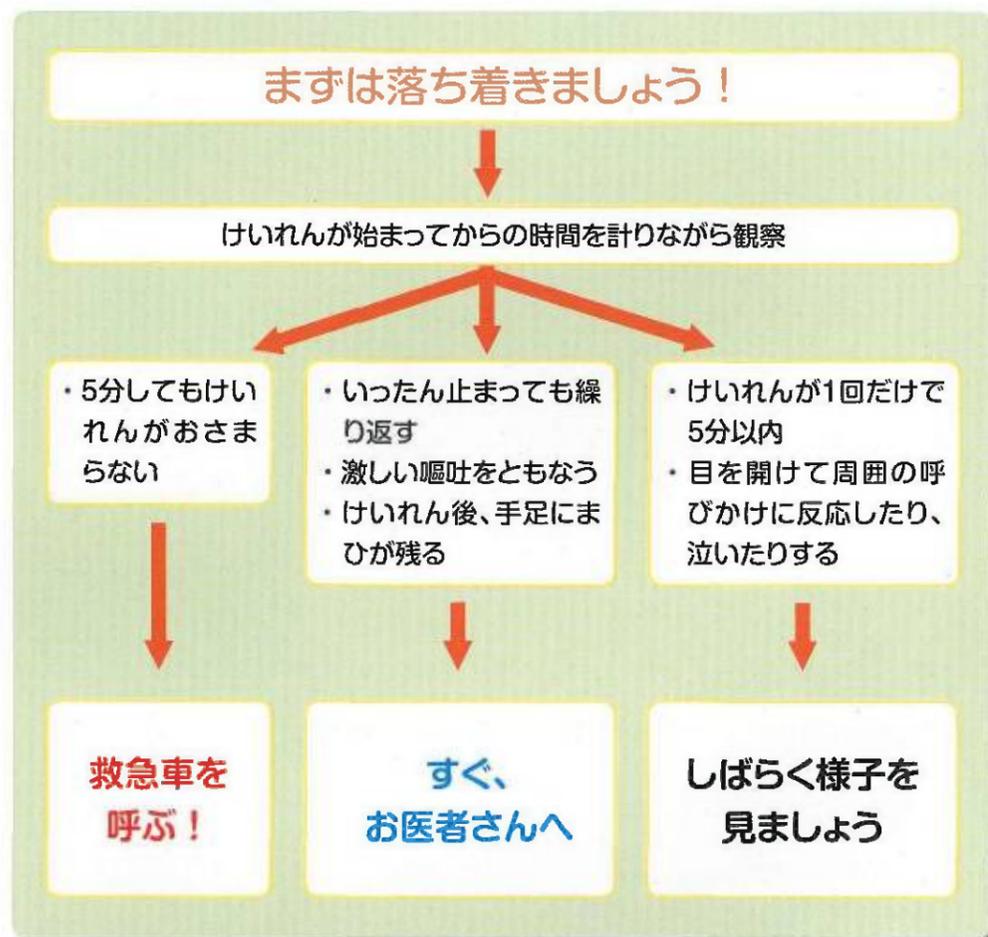


ひきつけ(けいれん)の時

ひきつけ(けいれん)時のチェックポイント

- ・けいれんをおこしている時間。
- ・けいれんの後に意識が回復するか。
- ・けいれんがおさまった後は、手足を自由に動かせるか。
- ・体温は？

ひきつけ(けいれん)時の対応フローチャート



ひきつけ(けいれん)時のホームケア

- ・まず、慌てず落ち着きましょう。
- ・ほとんどの場合、けいれんは数分間で止まります。
- ・命に関わることは、まずありません。
- ・口の中に指や箸などを入れたり、体をゆすったり、押さえついたりしてはいけません。
- ・体を横向きに寝かせ、衣類をゆるめましょう。⇒ 嘔吐に注意!
- ・時計を見てけいれんが何分続いているか確認しましょう。
- ・体温を測りましょう。

熱性けいれん

- ・体温が急激にあがる体の変化に、発達が未熟な脳がついていけないことにより起こります。
- ・日本人の5%ぐらいに起こり、後遺症が残ることはありません。

●熱性けいれんの典型的な状態

- ・はじめてのけいれんが生後6カ月から4歳ぐらいまで。
- ・けいれんが数分以内でおさまる。
- ・38.5℃以上の熱がある。
- ・けいれんが反復しない。
- ・けいれんに左右差がない。
- ・けいれんの後に意識が回復する。
- ・嘔吐がない。
- ・けいれんがおさまった後は、手足を自由に動かす。



泣き入りひきつけ

- ・激しく泣いた後に起こるひきつけです。
- ・加齢とともにおさまっていき、命にかかわることもありませんし、後遺症が残ることもありません。

●泣き入りひきつけの典型的な状態

- ・生後6カ月頃から5歳ぐらいまで。
 - ・急に息を止めて、手足がかたくなる。
 - ・体をそりかえして、顔色が赤黒くなる。
 - ・1分以内に呼吸がもどり、顔色も良くなる。
- ※少し泣いただけで起こす場合や、頻度が多ければ、検査が必要です。5歳頃になっても、よく起こす場合も検査が必要です。

吐いた時(嘔吐)

吐いた時(嘔吐)のチェックポイント

- ・吐いた後、ケロツとしていればまず安心。
- ・吐いた後も、苦しんでいたり、顔色が悪く、グッタリしていたら要注意。
- ・嘔吐以外に症状はないか。(腹痛・不機嫌・発熱・頭痛・意識障害・血便)

こんな時は?

- ・高熱や頭痛がある
- ・ボーッとしている
- ・強い腹痛をとまらぬ
- ・繰り返し吐いて、オシッコが長時間出ない
- ・口の中や舌が乾燥している
- ・手足が冷たい

- ・吐いた後、ケロツとしている
- ・嘔吐の他に症状がない

すぐ、お医者さんへ

しばらく様子を見ましょう

特に緊急性の高い嘔吐・下痢の症状

- ・がまんできないほどの激しい腹痛。
- ・血液または胆汁のような緑黄色のものを吐いた。
 - ⇒ 茶褐色・コーヒー残渣物・緑黄色様のもの
 - ⇒ 吐物に便臭
 - ⇒ 鼻血に注意
- ・便に多量の血液が混じるまたはイチゴゼリー様の軟便。
- ・頭を激しく痛がる。
- ・意識がもうろうとしている。
(揺さぶっても起きない・足の裏をたたいても目を開かない・泣かない)



吐いた時(嘔吐)のホームケア

- ・吐いた後、2時間程度は胃に物を入れないようにしましょう。
⇒脱水の心配はありません。
- ・どうしても欲しがったら、口をぬらすだけにしましょう。
- ・水分はスプーンでチビリチビリと与えましょう。(お茶か水で良い)
- ・空腹を訴えたら、アメかキャラメルをなめさせましょう。
- ・嘔吐から、24時間は水分中心にしましょう。少量のお粥かうどんは大丈夫です。

下痢の時

下痢の時のチェックポイント

- ・便にいつもと違う点はないか。(におい、状態、回数)
- ・発熱、発疹など全身状態の観察。

こんな時は?

- ・下痢の回数が頻回でぐったりしている
- ・脱水症状がある
- ・高熱、嘔吐、強い腹痛を伴う
- ・便に血が混じる
- ・おしっこ量が少ない

- ・下痢の回数が1日5回以内
- ・おしっこが普段と変わらず出ている
- ・熱もなく機嫌もよい
- ・下痢が頻回でも元気がある

すぐ、お医者さんへ

しばらく様子を見ましょう

下痢の時のホームケア

- ・水分の補給をこまめにしましょう。
- ・おしりがかぶれないように、オムツ交換の時などによく洗ってあげましょう。
- ・下痢がひどい時には固形物は与えず、回復してきたらお粥やうどんなどを少しずつ与えましょう。
- ・回復してきても、冷たいもの、刺激の強いもの(辛いもの)、脂肪分の多いもの、繊維の多いものといった食べ物、飲み物は控えましょう。



腹痛の時

腹痛の時のチェックポイント

- ・痛みはいつからか。
- ・食事は取れているか。
- ・便は出ているか。



こんな時は?

- ・お腹をかがめて痛がる
- ・便に血が混じる
- ・下痢、嘔吐を伴う
- ・ぐったりして泣いてばかりいる
- ・お腹を触ると痛がる

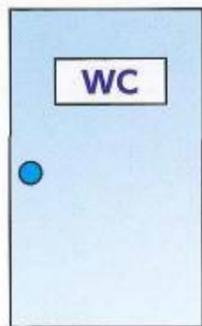
すぐ、お医者さんへ

- ・すぐに軽くなって我慢できる痛みになった
- ・排便により痛みが止まって全身状態がよい

しばらく様子を見ましょう

腹痛時のホームケア

- ・排便を促しましょう。
- ・お腹を温めてください。
- ・排便がなく、30分様子を見ても軽快しなければ、浣腸してみましょう。
- ・硬便・軟便が出て、腹痛がやわらげば、翌日受診をしましょう。
- ・血便(イチゴジャム様)が出たり、腹痛がずっとおさまらなければ、救急受診をしましょう。



せきがひどい時

せきがひどい時のチェックポイント

- ・ヒューヒュー、ゼーゼーしていないか。
- ・声が嘎れて、オットセイの鳴き声のようなせきは出ていないか。
- ・苦しくて眠れない・ぐずる・泣くことはないか。
- ・顔色が悪く、ぐったりしていないか。
- ・呼吸数。(1分間に赤ちゃんで60回・幼児で40回以上だと呼吸が多い)
- ・呼吸のたびにのどがへこむ・肋骨が浮き上がることはないか。
- ・鼻をひくひくさせたり、肩で呼吸することはないか。
- ・何か、飲みこんでいないか。



こんな時は?

- ・呼吸が苦しくて夜眠れない
- ・ヒューヒュー・ゼーゼーがひどい
- ・息が速い、あらい

すぐ、お医者さんへ

- ・機嫌良く食欲もある
- ・ときどきコンコンのせき
- ・横になって眠れる

しばらく様子を見ましょう

せきがひどい時のホームケア

- ・背中や胸をやさしくトントンしましょう。
- ・しっかり覚醒していることを確認して、スプーンで少量ずつ水分を与えましょう。(お水かお茶)
- ・部屋を温かくして、加湿に努めましょう。

Q&A

●せきはどのようにして出るのでしょうか?

⇒ じゃまなものを外に排除する体の反応です。

- ・のどに痰や鼻水が溜まる ⇒ 特に心配ありません
- ・温度・湿度が急に变化したとき ⇒ 特に心配ありません
- ・異物を吸い込む ⇒ 心配
- ・気道が狭くなる ⇒ 心配

出血した時

出血した時のチェックポイント

- ・何が原因で出血したか。
- ・出血が止まるまでの時間、出血の様子などを確認する。

こんな時は?

- ・15分押さえても出血が止まらない
- ・ピュッピュッと拍動性に血が出る
- ・傷が大きく、深い
- ・細かなガラス破片、汚れがとれない
- ・鼻血が30分以上続く場合

すぐ、お医者さんへ



- ・出血したがすぐに止まった
- ・傷が小さく、浅い
- ・鼻血

しばらく様子を見ましょう

出血した時のホームケア

《切り傷》

- ・切り傷は清潔なガーゼなどをかぶせ、浅い傷は軽く、深い傷は強く圧迫して止血します。
- ・止血しにくい時は患部を心臓より高く上げてみましょう。
- ・止血した傷口を流水で洗い異物をきれいに取り除きましょう。

《鼻血》

- ・鼻血は腰を掛けさせ、口で息をさせて鼻骨のすぐ下を10分ほど押さえましょう。
- ・なかなか鼻血が止まらない場合は鼻の穴に清潔な脱脂綿を詰めて圧迫し十分止まってからそっと抜き取りましょう。
- ・のどにたれてきた鼻血は飲み込ませず、口から出させましょう。



頭を打った時

頭を打った時のチェックポイント

- ・頭を打った後、すぐに泣いたかどうか、ぼんやりしていなかったかどうか。
- ・吐き気や嘔吐の有無、呼吸の状態、瞳の大きさ、目や手足の動きに異常がないか。

こんな時は?

- ・何度も吐く
- ・呼吸が荒い、いびきをかく
- ・意識がない、ぼんやりして放っておくと眠ってしまう
- ・光をまぶしがって嫌がる
- ・手足の動きが悪かったり、けいれんがある
- ・打ったところだけでなく、頭全体を強く痛がる
- ・物が見えなかったり、二重に見えたりする

すぐ、お医者さんへ

- ・すぐに泣き出し、泣きやんだ後は機嫌がよく食欲もある
- ・頭を打った後、意識や目、手の動きに異常がなく、普段と変わったところがない
- ・普通に会話ができている

しばらく様子を見ましょう

頭を打った時のホームケア

- ・こぶができた時は、ぬれタオルや冷却シートで冷やす。(3~7日でひきますが、こぶが大きくなる場合は受診が必要です。)
- ・あらかじめ事故やけがを予防しましょう。家具の角などにはクッションテープを貼る、階段や段差の大きい箇所には柵を取り付けるなど、安全対策をとっておきましょう。



湿疹(ブツブツ)が出た時

湿疹(ブツブツ)が出た時のチェックポイント

- ・全身にどんどん広がっていないか。
 - ・顔や口唇が腫れてこないか。
 - ・他の症状はないか。
⇒ せきこみ・ゼーゼー・腹痛・嘔吐
- ※重症のじんましん(食物アレルギーなど)には注意しましょう!

こんな時は?

- ・発疹がどんどん広がる
- ・かゆみが強い
- ・ゼーゼーしはじめた
- ・咳込みや嘔吐がある

- ・他に困った症状がない
- ・元気がある

すぐ、お医者さんへ

しばらく様子を見ましょう

湿疹(ブツブツ)が出た時のホームケア

- ・湿疹(ブツブツ)に気づいても、様子を見てください。
- ・薬は塗らないようにしましょう。
- ・かゆい場合は、水で冷やしてみてください。
- ・入浴は、避けた方が無難です。
- ・熱が高ければ、発熱の対応をしましょう。
- ・医療機関が時間外の場合、翌日(休み明け)受診で大丈夫です。
- ・人にうつる病気かもしれないので、受診時は受付に申し出ましょう。



やけどをした時

やけどをした時のチェックポイント

- やけどの程度
 - ・第1度：皮膚が赤くなって、水ぶくれにならない程度。
 - ・第2度：水ぶくれができ、痛みが強い。
 - ・第3度：皮下組織まで達するやけどで、黒く焦げていたり、白くなっている。
- やけどの範囲
 - ・手のひら1枚分が、約1%。

こんな時は?

- ・範囲が広い場合
(大人の手のひらよりも広い)
- ・程度が第3度の場合

- ・赤いだけで水ぶくれができていない
- ・範囲が狭い第1度程度のやけど

すぐ、お医者さんへ

しばらく様子を見ましょう

やけどをした時のホームケア

- ・広範囲の場合は、救急車を呼びましょう。
- ・大人の手のひら以下の範囲なら、まずは流水で20分以上冷やしましょう。(水は強すぎないように)



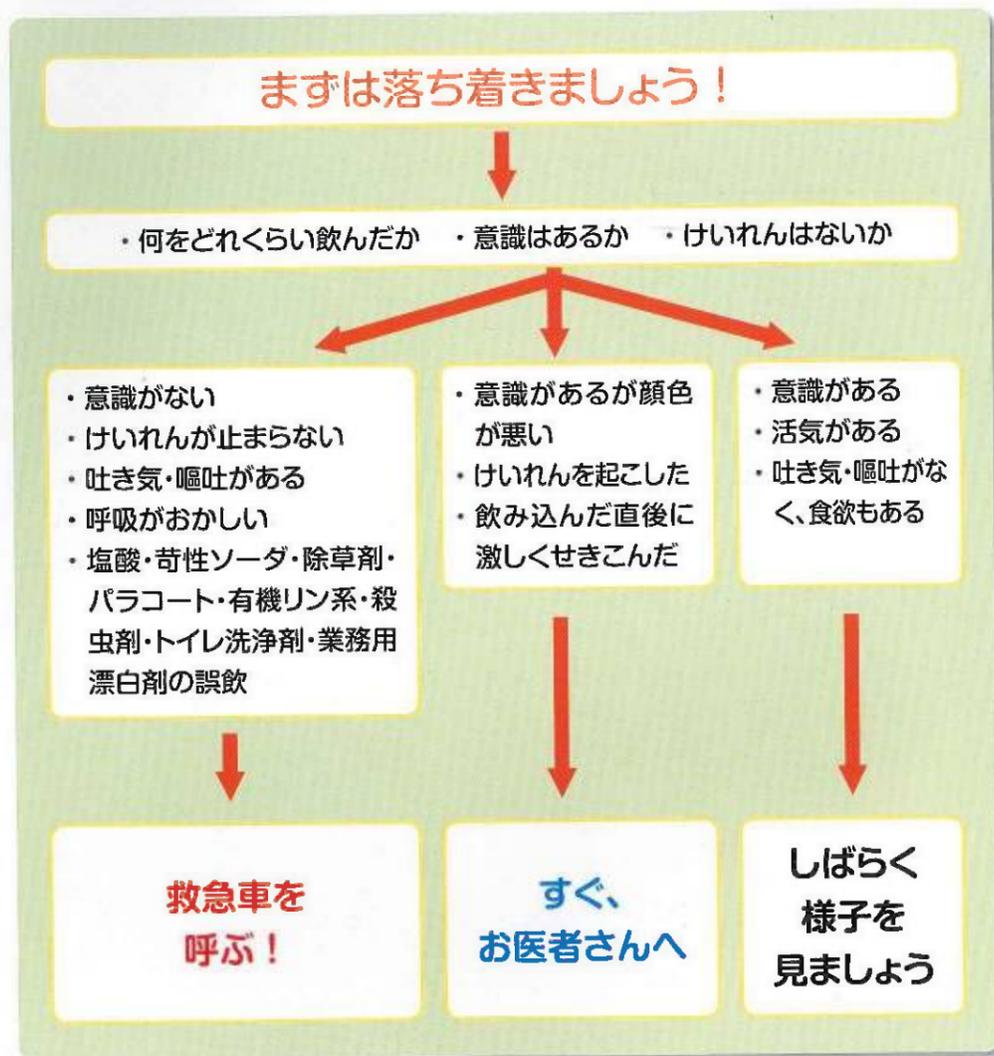
誤飲・誤食をした時

誤飲・誤食をした時のチェックポイント

- ・何をどれくらい飲んだか。
- ・意識があるか。
- ・顔色が悪くないか。
- ・吐き気、嘔吐はないか。
- ・けいれんはないか。



誤飲・誤食をした時の対応フローチャート



品別による誤飲・誤食をした時の応急処置

品名	応急手当	
除光液・灯油・ガソリン等の揮発性物質	何も飲ませない	吐いたものが、気管に入り、肺炎等を起こすので吐かせない。
トイレ用洗剤・漂白剤等の強酸・強アルカリ	牛乳・卵白を飲ませる	無理に吐かせると食道等の粘膜を傷めるので吐かせない。
金属・ボタン電池	何も飲ませない	医師に相談し、便と一緒に出てくるのを待つ。電池は成分が胃の中で溶けることがあるので、すぐ医師に相談する。
たばこ		のどの奥を刺激して、すぐに吐かせる。
大部分の医薬品	水や牛乳を飲ませる	
パラジクロル・ベンゼン・ナフタリン・防虫剤等	水を飲ませる	防虫剤等は油に溶けやすく、毒物の吸収を早めるので、牛乳は飲ませない。

吐かせずに至急、医療機関へ

吐かせずに医療機関へ

吐かせて医療機関へ

異物を取り除く場合、吐かせる場合

- ・異物が口の中に見える時は、人差し指をほほの内側にそって差し入れ、詰まっている物をかき出してください。
- ・のどに詰まっている時は、頭を下にして背中をたたいてください。
- ・吐かせる時には、指をのどの奥に入れて舌を押し下げます。
(除光液・灯油・ガソリン等の揮発性物質、トイレ用洗剤・漂白剤等の強酸・強アルカリ、金属・ボタン電池などは吐かせるとかえって危険です)

誤飲・誤食で処置がわからない時は、かかりつけ医や、(財)日本中毒センター「中毒110番」に相談してください。

- ・大阪中毒110番：072-727-2499(365日24時間対応)
- ・つくば中毒110番：029-852-9999(365日9時～21時対応)
- ・タバコ専用電話：072-726-9922(365日24時間テープによる情報提供)

熱中症になった時

熱中症になった時のチェックポイント

・熱中症の症状は、応急処置で治るもの(I度)から病院への搬送が必要なもの(II度)、入院して集中治療が必要なもの(III度)があります。

I度：めまいがする、いわゆる「立ちくらみ」の状態です。筋肉痛や、筋肉の硬直(こむら返り)がみられます。大量の発汗がみられます。熱はほとんどありません。

II度：頭痛、吐き気、嘔吐、体がぐったりする状態で「熱疲労」とも言われます。

III度：呼びかけや刺激への反応がおかしい、体がひきつける、歩けないなどの運動の障害があります。体温が異常に高いことが多く見られます。

こんな時は?

・異常に体温が高く、意識がなくなったり、けいれんをおこしている

救急車を呼ぶ!

・II度、あるいはIII度の状態
・水分を自力でとれない

すぐ、お医者さんへ

・I度の状態で、水分が飲める
・頭痛、吐き気がなく、全身状態がよい

しばらく様子を見ましょう

熱中症になった時のホームケア

- ・風通しのよい日陰や、涼しい場所に避難させましょう。
- ・衣服を脱がせて、露出した皮膚に水をかけて、うちわや扇風機などで体を冷やしましょう。
- ・発熱があれば、氷まくら、氷のう、冷却シートなどで冷やしましょう。(解熱剤は使用してはいけません)
- ・冷たい飲み物を与えましょう。
- ・大量の発汗がある場合は、子ども用イオン飲料を与えてみましょう。



薬の上手な飲ませ方

基本的なルール

- 1.清潔に!(赤ちゃんは抵抗力が弱いので、必ず手を洗ってから飲ませましょう)
- 2.量と回数を守る!(自分の判断で量や回数を増減してはいけません)
- 3.市販薬と併用しない!
- 4.保管は子どもの手の届かない所で!

飲ませ方のポイント

10カ月くらいまでは

- ・水薬はそのまま与える。
- ・粉薬は少量の水で練り、上あごやほほの内側に塗りつけ、その後、水分を与える。

10カ月過ぎたら

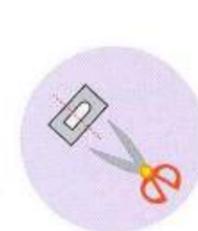
- ・そのまま与えるか、子どもの好きなもの(アイスクリーム、プリン、ゼリー、ジャムなど)に混ぜて与える。

(薬を混ぜる場合の注意点)

- ・おかゆやミルクには混ぜない。(嫌いになってしまう可能性があります)
- ・薬の成分が変化してしまう可能性があるため、熱いものには混ぜない。
- ・抗生物質はヨーグルトや酸味のあるジュース、スポーツ飲料などに混ぜると苦みが増すことがある。

座薬の使い方

- ・冷蔵庫で保存する。
- ・カットする場合は外装の上から、はさみやナイフで切る。
- ・座薬の先を指で温めて丸みをつけたり、オリーブオイルなどを塗ったりすると無理なく入ります。奥まで挿入し、しばらく押さえておきましょう。



●くわな健康・医療相談ダイヤル24

24時間電話健康相談サービス ご利用案内
フリーダイヤル(無料)です。悩む前にまずはお電話ください。



こんなときは…



- 夜中に赤ちゃんが熱を出したときの対処について
- けがの応急手当てを教える
- 家族の介護のことで相談したい
- 夜間・休日などに受診できる医療機関を教える

電話で相談ください。



ヘルスカウンセラーが対応します。

24時間電話 健康・医療相談サービス

フリーダイヤル **0120-149-107**

お名前と年齢を告げてご利用ください。
受付時間/24時間・年中無休

《ご利用に際して》

◎桑名市民の方がサービスをご利用になれます。

- ・携帯電話からも利用可能です。
- ・公衆電話、非通知設定の電話からはご利用になれません。

このようなサービスが受けられます。



●健康相談

日常生活での「体の不調」や「健康保持・増進」に関する相談に応じます。

●医療相談

病気に関する説明や治療・検査などについて、アドバイスいたします。

●介護相談

介護を受ける方、される方の様々な不安に対し、相談に応じます。

●育児相談

妊娠・出産・育児などの相談に、分かりやすくアドバイスいたします。

●医療機関情報

お住まいの近くの医療機関や専門外来などのご案内をいたします。

○ご利用者の状況または相談内容により、相談の制限・停止をさせていただく場合があります。

○プライバシーは厳守されますので、安心してご利用ください。ただし生命の危険等、守秘の限界を超えると判断した場合を除きます。

●みえ子ども医療ダイヤル(救急時の電話相談)

小児科医師が電話相談に応じてくれます。子どもさんの急な病気に対して、どのように対応すればよいかの助言をしていただけます。状態をできるだけ落ち着いて正確に伝えることが大切です。なお、医療機関の紹介はしていませんので、下記の救急医療情報をご活用ください。

電話 #8000(ダイヤル式電話等 059-232-9955)

毎日 19:30~23:30

●救急医療情報(受診可能な医療機関の紹介)

○医療ネットみえ

パソコン、携帯電話で受診が可能な医療機関を検索できます。

パソコン <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/>

携帯電話 <http://www.qq.pref.mie.lg.jp/k/>

○音声による救急医療情報

受診が可能な医療機関を音声で自動案内します。

電話 0800-100-1199

○救急医療情報センター

電話で、受診が可能な医療機関を紹介しています。

電話 23-1199



●桑名市応急診療所



桑名市鍛冶町9番地
電話21-9916(診療時間内)

桑名市応急診療所は日曜・祝日や土曜夜間などの「かかりつけ医」や近隣の医療機関が休診時に急病になられた場合、受診をしていただく機関です。

受診の際には下記のことにご注意ください

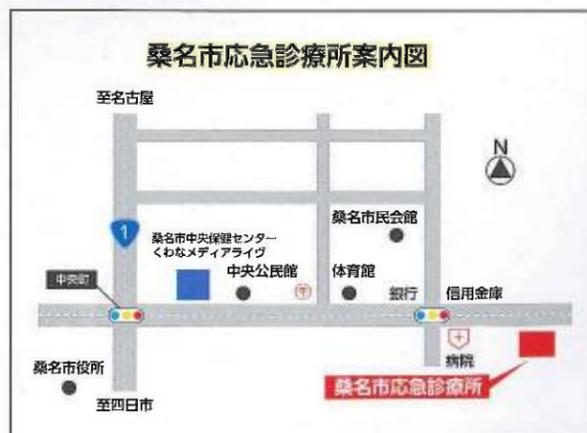
- ・診療科目は内科及び小児科です。
- ・内科及び小児科以外の診療については、救急医療情報センター(電話23-1199)で診療可能な医療機関をご案内しますので、医療機関にご確認の上、受診してください。
- ・応急診療所は応急診療であるため、原則、お渡しする薬は1日分となります。
- ・診療を受けられた翌日は「かかりつけ医」の診察を受けてください。
- ・応急的な診療(比較的軽症の患者さんが対象)のため、専門的な診療や検査が必要な場合、二次救急医療機関の受診をお願いする場合があります。

診療日	診療時間
日曜・祝日・ 12/31・1/2・1/3	9:30 ~ 12:00 13:00 ~ 16:00
土曜の夜間	20:00 ~ 22:00



診療の際に必要なもの

- ・健康保険証
(万一お忘れの際には一旦全額
自費でお支払いいただくと共に、
後日改めて手続きをしていただ
かなければなりません。)
- ・各医療受給者証(お持ちの方)



●災害発生時に備えて

非常用持ち出し物品として準備しておきたいもの

- ・食料
- ・子どものおやつ(賞味期限が長いもの)
- ・粉ミルク(必要な方)
- ・マスク
- ・古新聞紙
- ・ビニールシート
- ・おむつ
- ・生理用ナプキン
- ・ヘルメット
- ・飲料水(水500ml 2本/人が目安)
- ・離乳食
- ・ウェットティッシュ
- ・トイレトペーパー
- ・ラップ
- ・ビニール傘
- ・おしり拭き
- ・軍手

災害時にあったら便利なもの

- ・ポリタンク
- ・カセットコンロとガスボンベ
- ・簡易ナイフ
- ・洗面用具
- ・簡易トイレ
- ・ベビーカー
- ・車で充電できる充電器
- ・バケツ
- ・石油ストーブと灯油
- ・寝袋
- ・ドライシャンプー
- ・スリング(おんぶ紐)
- ・ガンリン用携行缶

母子健康手帳の活用

災害時は、母子健康手帳はお母さんと赤ちゃんの唯一のカルテとなります。日頃から母子健康手帳に検査結果、飲んでいる薬、連絡先などが分かるようにしておきましょう。

